

遠隔地とリアルタイムで交流する

TV 会議システムの効果的な活用

D:児童生徒の ICT 活用力向上

こんな生徒の姿が生まれました!

- 教科で学んだ表現を用いて、英語で話しかけたり、集中して話を聞き反応したりする姿。
- 難聴学級において、自ら話す内容を考えたり、意思疎通の手段を工夫したりする姿。

海外と繋いで外国人と直接対話する外国語（英語）の授業

海外の人とコミュニケーションを図る外国語（英語）の授業

- ・ オーストラリアの学校と TV 会議システムで繋ぎ、外国語を用いてコミュニケーションを行う。
- ・ 外国語の授業で学んだ表現や対話形式でのやり取りを生かすことができた。
- ・ 現地に住む人々の生活スタイルなどについて質問するなど、異文化に触れることができた。



導入のポイント

- 海外の学校と日程調整ができれば、TV会議システムを使ってコミュニケーションを行うことができる。
- 通信環境を整えることで、音声や映像の乱れがない環境で画面越しに海外の人と対話できる。

飛騨地区小中学校の難聴支援学級を繋いだ難聴交流会

TV 会議システムを活用し、同じ障がいをもつ同世代の仲間との交流を実現

- ・ 地区の難聴学級を TV 会議システムで繋いで交流会をもった。同世代で同じ障がいをもつ仲間と交流できる機会を実現することは、将来に渡って協力できるネットワークの構築につながると期待する。
- ・ 近隣の学校には同じ障がいをもつ仲間が少ないため、交流をする機会がない。似たような困りや悩みを抱えていたり、分かり合える感覚を共有できたりすることで児童生徒が生き生きと生活できる。
- ・ ジェスチャーや手話、スケッチブックなど、音声以外の表現方法を活用して交流することで児童生徒の表現力の育成にもつながる。



導入のポイント

- 学校間交流をする際に障壁となる時間調整や移動の負担が解消できる。